

堆肥で健康が循環する地域を、子どもたちへ



循環型社会へのスローガン「環の町 芳賀」を野菜に添えて



堆肥で育てた野菜のおいしさが直売で歓迎される

野菜のおいしさは、土壌微生物・小動物から土へ、土から野菜へ、野菜から人へとつながる健康の循環のたまものです。いま、そのような循環する地域づくりが全国各地ですすめられていますが、栃木県芳賀町の運動のスローガンは「環の町 芳賀」。

4、8頁で紹介した循環システム研究会は、これに積極的に参加。地域の小中学校や商店街から集めた生ゴミで良質堆肥をつくり、堆肥で農地の地力回復をはかって、健康・安全でおいしい農産物を収穫し、学校給食をはじめ地域の消費者に届ける活動を展開中です。

■ 堆肥への地域の理解が高まる

生ゴミといえば、はじめは農家からは「ゴミを農地に入れるなんて」との疑問があり、商店街などからは「分別の手間が大変」という抵抗感がありましたが、次第に「生ゴミは貴重な資源」という認識に変わってきたといいます。

宇都宮市の商店街での直売では、お年寄りから「昔なつかしい味がする」と喜ばれ、野菜を納めている料亭の主人からは「アク抜きなどの面倒な手をかけなくても、野菜の甘味・うまみを活かせばよい」と評価されます。このように、野菜のおいしさ・健康さがメッセンジャーとなって、堆肥についての地域の理解も高まっていくのです。



なつかしい野菜の味が喜ばれる